



ISSOP

INTERNATIONAL SOCIETY for
SOCIAL PEDIATRICS and CHILD HEALTH

Responding to the Impact of the Climate Crisis on Children:

The Role of Child Health Professionals and Organizations in Achieving Climate Justice

気候危機（Climate Crisis）の子どもたちへの影響への対応：

気候問題における正義を達成するために小児医療の専門家と組織の役割

世界中の子どもたちは、気候変動についての意見を聞いてほしいとの要求をもって、それは国連子どもの権利条約と持続可能な開発目標（SDGs）によって保障されている権利です。彼らには懸念する理由があります。2019年のランセット総説カウントダウンや他の複数の出版物は、気候変動が乳幼児自身の今と将来の世代の健康とウェル・ビーイングに直接的、間接的影響に対する彼らの深刻さを増す脆弱な状況を立証しています。

気候危機は、子どもの権利の危機です。ですから、子どもの気候危機への対応のすべての要素を前に進める子どもの権利に基づくアプローチを用いることは、非常に重要です。国連の子どもの権利条約とSDGsはこうした対応の基本となります。子どもの権利、社会正義、公平性に関する原則、基準そして規範は、子どもたちに対する気候危機の影響に対応するための青写真、ツールそして指標を提供します。

子どもの健康に関わる専門家は、先頭に立つ世界の若者とともに歩み、子どもたちと子ども期に対する気候危機の今そこにある脅威に協力して立ち向かうという、彼らとの長期的な関係性を築く必要があります。子どもの健康に関わる専門家において、気候変動が子どもに与える影響を目撃するにふさわしい職業はありません。社会小児科学と子どもの権利に焦点を当てた唯一のグローバルな子どもの健康に関する組織として国際社会小児科学小児保健学会（ISSOP）は、世界的な気候危機が子どもたちや若者に与える影響を防ぎ軽減するための包括的で学問領域を横断する戦略の開発に、学際的な視野をもつ小児科医、子どもの健康に関わる専門家、そして子どもへの支援者を関与させる、独自の立場にあります。

慎重に管理することを通じて環境を尊重してきた先住民族の知恵と知識、そして生物圏と調和して生きるすべての人々の権利への懸念を正しく理解した上で、すべての子どもたちのために持続可能な惑星へと公平で公正な移行を達成するために、私たちは必要な行動をとることを固く決意します。

これらの目的に向かうにあたり：

例えば、気候変動に関する政府間パネルの第4回評価報告書は、地球が誤った方向でのグローバルな気候変動を経験しており、人為的な影響の関与が重要な問題だと結論づけています。そして、



ISSOP

INTERNATIONAL SOCIETY for
SOCIAL PEDIATRICS and CHILD HEALTH

一方で、気候変動は、特定のライフステージや環境、特に子どもたちや貧困下あるいは低所得国で暮らす人々に過大な影響を及ぼすといった、パブリックヘルスに不利に働く状況を生み出しています。そして、

一方で、子どもたちは、身体が成長し発達していく途上にあるため特に脆弱であり、子ども特有の行動や環境との相互作用があり、基本的なニーズを満たすために親や保護者に頼らなければなりません。そして、

一方で、気候変動は、気温上昇にさらされる結果として子どもたちの健康に悪影響を及ぼします。より頻繁で深刻な、より長期化する異常気象、食糧や水を介したあるいは昆虫などの媒介する感染症の増加、真菌毒関連疾患の増加、あるいはカビ、花粉及び化石燃料の使用による大気汚染の増加、あるいはメンタルヘルスのストレス要因、そして

一方で、生活の場を追われたり、インフラを破壊されたり、あるいは水や食糧、その他の資源の争奪をめぐる紛争は、子どもたちの身体の健康、精神の健康、およびウェル・ビーイングにますます悪影響を及ぼしています。そして

一方で、紛争は、気候変動（減少する資源めぐる争奪）の結果であるだけでなく、軍用ハードウェアを生産しそれを輸送するための天然資源搾取がその主要な動機となっています。そして

一方で、私たちの世界のデジタル化は、膨大な量のエネルギーを消費します。そして

一方で、子どもたちは災害の最中あるいは被災後に大人とは異なるメンタルヘルスへの影響を経験します。それは、発達段階および認知および感情の成熟度によって異なります。そして

一方で、子どもたちのメンタルヘルスに対する気候変動の影響が検討されてきており、研究者たちは「気候変動によって侵される恐れのあるメンタルヘルスの維持に必要な社会構造を強化する方法」を探しています。

したがって、地域、国内および国際的な小児科学および小児保健に関わる機関は、学際的な子どもの保健に関わる専門家、子ども支援者、若者そして家族とともに、化石燃料の使用を最小限に抑え、世界の炭素排産を削減し、子どもたちへの気候変動の影響を抑え、そして生態学的根拠のある持続可能な世界という正しい気候目標を達成します。そのために力を合わせます。



ISSOP

INTERNATIONAL SOCIETY for
SOCIAL PEDIATRICS and CHILD HEALTH

以下を提唱する：

- 温室効果ガスの排出を迅速に削減し、気候変動に関連する異常気象への備えを確実にする、地域、国、および国際的な政策と戦略
- 持続可能で再生可能な発電システム、アクセス可能な交通機関、植物ベースで再生可能な食糧、そして子どもたちや家族の生活を向上させる緑地への公平なアクセス
- 持続可能でカーボン・ニュートラルな住宅、そして小児期の呼吸器疾患を軽減する手段としての既存の住宅の改良
- 家庭、学校、病院、職場などでの基本的な省エネ戦略
- 大気汚染と炭素発生移動手段への依存を減らすため、すべての人のための代替となる、より健康的な輸送形態（徒歩、自転車、公共交通機関を含む電気自動車）
- 持続可能な開発原則の実行
- 気候危機に対する子どもたち自身の意見と変動を抑える努力を、前に進め支援すること
- 擁護する者として、外来診療、病院、および医療保険システムにおける臨床あるいは非臨床領域のスタッフ、そして子どもたちや若者、そして患者の家族を巻き込むこと
- エネルギー効率の向上、再生可能エネルギー源の組み込み、廃棄物の削減などを含む、医療施設の脱炭素と環境負荷を削減するための取り組み

教育を前に進める：

- 学びの様々な段階でそして実践のあらゆる場で、気候危機のすべての側面について、子どもの保健に関わる専門家の学び それには、a) 気候変動の科学、b) 気候変動が子どもの健康とウェル・ビーイングに及ぼす直接および間接的な影響、c) 炭素排出を軽減するための戦略、d) 気候変動が子どもの身体的精神的健康に及ぼす悪影響を防止し対応するためのアプローチ、そして e) 効果的な子どもの擁護者になる方法、が含まれる
- とりわけ、子どもに力を与え気候変動の問題に関する子どもの声を支援する、子どもの権利に関する教育（UNCRC 第 42 条）の重要性についての学び
- 気候変動とそれが子どもの健康とウェル・ビーイングに与える影響についての子どものと家族の学び 外来診療や健康を考える場（保健センターや診療所、病院）、学校、市民社会、そして子どもたちや大人が暮らし学ぶそのほかの場でも取り組む
- 気候変動が子どもの健康にもたらすリスクについて選挙で選ばれた立場での学び 公聴会で話をしたり専門家の証言を提供する 編集者への手紙やコミュニティへの関与を通じて一般の人々を教育するのを手伝う 小児科学会による CO2 削減目標に取り組み、目標を達成する



ISSOP

INTERNATIONAL SOCIETY for
SOCIAL PEDIATRICS and CHILD HEALTH

- すべての年齢の専門家と非専門家を含むコミュニティの学び 個人としてそして共同でいかにアドボケートするか、あるいは子どもたちと協力していかに気候危機への気づきを広げ、対応する方法について意識を高めるか
- 商業主義についての親と子の学び メディアによる搾取と有害なマーケティング慣行から保護される子どもの権利、および気候変動に対する商業主義の影響
- 気候変動の根本的な市民政治的、社会的、経済的、文化的、生態学的そして哲学的原因を特定する One Health、Planetary Health さらに Traditional Ecological Knowledge などの統合的で協調的な運動について そして、この知識を活用して回復力のある生態系を維持し、生物多様性を保護し、生物種間の正義を共通認識とし、人権、公平性そして社会正義を前に進めるための戦略を提供

国際的および国内の子どもの健康に関わる専門家組織および個人の外来診療医として：

- 家族とともに気候変動について話し合うための受診時用の説明の枠組みを使用する 環境の持続性を前に進めることの実践のため個人的なロールモデルを複数提供する
- 子どもの健康に関わる専門家が、きれいな空気と水、栄養価の高い食品、公園や緑地へのアクセスなどの必要性を含む“Whole Child health（全体としての子どもの健康）”の生態学的要素を実践するために翻訳する力を確かにするため、戦略とツールを開発し広める
- 飛行機での移動の削減、「グリーン」な施設や組織と契約、第一にベジタリアンそして気候への配慮、地元の食材を使った食事などの提供を含め、専門家会議に関連する二酸化炭素排出量を削減する
- 粉ミルクおよび離乳食業界による小児および小児の健康に関わる会議のスポンサー関係を終了し、粉ミルクや加工食品よりも環境に優しい母乳育児を推進する
- 子どもからの商業的搾取を止め、ライフコース全体での消費主義に基づく影響を軽減する
- 化石燃料業界による小児科会議への協賛を拒否する
- 保健部門、学術機関、リサーチ機関そして環境活動家グループと協力し、子どもに関わる気候に関連する健康への影響のサーベランス、分析そして報告を強化する
- 気候変動により故郷を追われた家族への支援、より良い医療サービスと媒介動物感染症や熱中症の治療へのアクセス、ワクチンへのアクセスの拡大、住居の改善など、気候変動の影響に続発して現在生じている問題や被害に対処する
- 気候変動が子どもの健康の不公平に及ぼす影響に関する研究に参加して前に進め、この研究を実践に移す変革的行動に変えていく
- 特に子どもたちと若者に関連する災害への備えを強化する 地元のリサイクル品を購入し、使い捨て製品は避ける
- 個人および家族の生殖に関する権利を前に進める



ISSOP

INTERNATIONAL SOCIETY for
SOCIAL PEDIATRICS and CHILD HEALTH

- 教育、アドボカシーそして市民活動を通じて、気候変動に対処するための連帯関係を構築する

人間が引き起こした気候変動は子どもたちと若者に悪影響を与えることから、子どもの健康に関わる専門家、社会そして組織は、世界的な気候危機を子どもの健康とウェル・ビーイングに対する現に存在する普遍的な脅威として認識しなければなりません。彼らには、この悪影響を防ぎ軽減し、そして断固として改善し、最適な生存と発達に対する子どもの権利を満足させるために、個人としてそして組織や社会と共同して、力強く解決に向けて行動しなければならない。

参考文献

- Ahdoot S, Pacheco SE; Council on Environmental Health. Global Climate Change and Children's Health. *Pediatrics*. 2015;136(5):e1468-84.
- American Academy of Pediatrics Council on Environmental Health. Global climate change and children's health. *Pediatrics*. 2015;136(5):992-997 <https://www.borderstep.org/digitisation-climate-protection/>
- Bhutta ZA, Aimone A, Akhtar S. Climate change and global child health: what can paediatricians do? *Arch Dis Child*. 2019;104(5):417-418.
- Bunyavanich S, Landrigan CP, McMichael AJ, Epstein PR. The impact of climate change on child health. *Ambul Pediatr*. 2003;3(1):44-52
- Burke SEL, Sanson AV, Van Hoorn J. The Psychological Effects of Climate Change on Children. *Curr Psychiatry Rep*. 2018;20(5):35. doi: 10.1007/s11920-018-0896-9.
- Ebi KL, Paulson JA. Climate change and children. *Pediatr Clin North Am*. 2007;54(2):213-26, vii.
- Kar N. Psychological impact of disasters on children: review of assessment and interventions. *World J Pediatr* 2009;5(1):5-11.
- Kiang K, Graham S, Farrant B. Climate change, child health and the role of the paediatric profession in under-resourced settings. *Trop Med Int Health*. 2013;18(9):1053-1056.
- Lloyd SJ, Bangalore M, Chalabi Z, Kovats RS, Hallegatte S, Rozenberg J, Valin H, Havlík P. A Global-Level Model of the Potential Impacts of Climate Change on Child Stunting via Income and Food Price in 2030. *Environ Health Perspect*. 2018;126(9):97007.
- Madrid PA, Grant R, Reilly MJ, Redlener NB. Short-term impact of a major disaster on children's mental health: building resiliency in the aftermath of Hurricane Katrina. *Pediatr* 2006;117(5): S448S453.



ISSOP

INTERNATIONAL SOCIETY for
SOCIAL PEDIATRICS and CHILD HEALTH

- Majeed H, Lee J. The impact of climate change on youth depression and mental health. *Lancet Planet Health*. 2017;1(3):e94-e95. doi: 10.1016/S2542-5196(17)30045-1.
- OHCHR. Understanding Human Rights and Climate Change. Available at: <https://www.ohchr.org/Documents/Issues/ClimateChange/COP21.pdf>
- OHCHR. The impacts of climate change on the rights of the child. Available at: <https://www.ohchr.org/EN/Issues/HRAndClimateChange/Pages/RightsChild.aspx>
- Perera F, Ashrafi A, Kinney P, Mills D. Towards a fuller assessment of benefits to children's health of reducing air pollution and mitigating climate change due to fossil fuel combustion. *Environ Res*. 2019;172:55-72.
- Philipsborn RP, Chan K. Climate Change and Global Child Health. *Pediatrics*. 2018;141(6).
- Salas RN, Jacobs W, Perera F. The Case of *Juliana v. U.S.* - Children and the Health Burdens of Climate Change. *N Engl J Med*. 2019;380(22):2085-2087.
- Shea KM; American Academy of Pediatrics Committee on Environmental Health. Global climate change and children's health. *Pediatrics*. 2007;120(5):e1359-67.
- Sheffield PE, Landrigan PJ. Global climate change and children's health: Threats and strategies for prevention. *Environ Health Perspect*. 2011;119(3):291-298
- Stanberry LR, Thomson MC, James W. Prioritizing the needs of children in a changing climate. *PLoS Med*. 2018;15(7):e1002627.

Translated by Hajime Takeuchi (ISSOP research member / Bukkyo Univ.)

翻訳：ISSOP リサーチ検討メンバー／佛教大学社会福祉学部 武内 一

脚注

1. well-being は、福祉あるいは福利、健康などと訳されるが、適切な和訳はないと判断して ウェル・ビーイングとした。
2. 原文にあるイタリック体は、日本語でも相当する文章あるいは単語を斜体標記とした。
その他、日本語に翻訳するにあたって、スムーズに読めるよう、ある程度必要と思われた修正を行っている点をご了承ください。

原文は、以下からダウンロードできる。

https://www.issop.org/cmdownloads/issop_declaration_responding_to_the_impact_of_climate_change_on_children/